

第1回 岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 会議録概要

1 開催日時 令和2年8月28日(金) 午前10時～11時15分

2 場 所 飯山市役所4階 全員協議会室

3 出席者

部会長	飯山市長	足立 正則
副部会長	野沢温泉村長	富井 俊雄
	飯山市教育長	長瀬 哲
	飯山高校同窓会長	宮本 衡司
	飯水中学校町会長	山田 晃
	飯水PTA連合会長	吉越 伸吾
	飯山高校PTA会長	坂東 武文
	飯山高等学校長	滝澤 崇
	高校再編推進室	上原 一善
事務局	教育部長	常田 新司
	子ども育成課長	岩崎 敏
	学校教育係長	大口 なおみ
	学校教育係	佐藤 優季子

4 会議の経過及び発言

1 開 会

子ども育成課長)

只今から、岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第1回飯山高校部会をはじめさせていただきます。本日進行を務めさせていただきます飯山市子ども育成課長の岩崎と申します。よろしくお願いいたします。飯山高校部会ですが、先月7月28日に研究協議会の全体会を開催させていただきました、その後飯山高校、下高井農林高校それぞれの部会に分かれて協議を進めていくということをご決定いただきましたので、飯山高校部会として第1回目の会議という形になります。

本日オブザーバーとして長野県教育委員会高校再編推進室の上原様にもご出席いただいております。よろしくお願いいたします。また、野沢温泉村岩上教育長様が本日欠席ということでございます。それでは、次第にそって進めさせていただきます。まず始めに、飯山高校部会長の足立飯山市長よりご挨拶をお願いします。

2 正副部会長あいさつ

部会長)

皆さん、おはようございます。まだまだ猛暑が続くわけでございます。また、それぞれ委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。只今事務局から説明があったとおりでございますが、長野県が高校の将来像を考える中で、岳北地域におきましては引き続き、地域の魅力ある高校づくりについて検討をしていくこととなりました。7月28日に第1回の岳北地域高校の魅力づくり研究協議会を開催いたしまして、飯山高校部会と下高井農林高校部会にそれぞれ分かれまして協議をすることとなりました。8月26日には下高井農林高校部会が開催されたと聞いております。飯

山高校部会は本日が第1回目ということになりますのでよろしくお願いします。また、それぞれの部会で協議していただき、10月の中下旬頃にはそれぞれの討議を集めて、第2回目の全体会を開催する予定となっておりますのでございます。飯山高校部会としましては、まず現状を知っていただいて、課題を挙げるのが全体会までの作業としていきたいと思っておりますのでございます。課題はいろいろなことがあると思いますが、幅広く全部挙げていただくことが大事だと思っております。それを整理して現状の高校の運営の中で対応すべき課題もあると思いますが、この会で将来に向けて展望を考えていくこともあると思いますので幅広く上げていただいて精査し検討すべき課題について絞っていければと思っております。特に飯山高校は岳北地域の高校生の普通科の生徒が行く高校ということで中核的な高校というふうに理解しておるわけでございます。それぞれの委員の皆様方にはいろいろなご意見を賜れればと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

副部会長)

野沢温泉村長の富井です。よろしくお願いします。下高井農林、それから飯山高校それぞれ飯山市、木島平村、栄村、野沢温泉村のそれぞれの首長が2つに分かれて正副部会長としてスタートしておりますけれども、私自身、教育者ではございませんので、学校教育がどうのこうのと言える立場ではないのですが、できれば地域の子ども達が無理のない自然な状態の中で、思い出に残る高校生活が送れるような、そんな学校教育になれば良いなと漠然とした希望はあります。ぜひ専門家である皆様にもご意見をいただきながら進めていければと思っておりますのでよろしくお願いします。

3 協議事項

(1) 飯山高校の現状について

事務局、飯山高等学校校長から説明

(2) 飯山高校の課題・今後のあり方等について

部会長)

今後のあり方については、課題が出てからでないと検討できませんので、それぞれのお立場で普段思っているようなことをご意見として出していただければと思います。限られた時間でございますのでこの中で全ての課題を挙げて整理することはできないと思いますので、事務局より課題を記入する用紙を用意してありますので後日提出していただければと思います。幅広い分野で課題を出していただければと思います。次回はそれを整理して絞っていききたいと思います。とりあえず今日は、それぞれのお立場でこんなことが課題ではないかとご発言いただければと思います。順番でよろしいですか、長瀬教育長からお願いします。

長瀬教育長)

現場を預かるものとして、1番懸念しているのは、特に中学生の上の方の子どもが市外へ出る生徒が増大傾向にあることが1点です。もう1つは探究科について中学生が理解していないことが、結果的に定員割れにつながっているのではないかと思いますので、探究科のPRをどうやってしていくかということ。2割近い生徒が長野の方へ行ってしまうので、その生徒が飯山高校にいてくれたら違った形になると思います。もう1つはスポーツ科、かつてはスキーで全国から来て、大会に出られない生徒も出てきてスキーの希望者がだんだん減り、定員割れして他のスポーツへ移っていったと思うのですが、例えば剣道ですが、中学校でもやる生徒が減ってきている。今飯山高校の剣道部は、黄金期でインターハイに毎年行っていた時代を見るとほんとにさみしい感じがする。中学校でも剣道部の生徒を育てないといけないと思っています。もう1つは出口

の部分ですが、普通科へ来る生徒は最初から専門学校へ半数が行きたいと思っているのか、大学への進学を希望していたが難しいから専門学校へ向かっているのか、外からではわかりませんが、地域の進学校としての飯山高校の今までの役割を考えるとその辺が非常に理解できない。もっと突っ込んで言うと経済的な家庭の事情で専門学校へ行っているのか高校の現場ではどのように理解しているのか、4点ほど上げさせていただきます。

飯山高校同窓会長)

長瀬先生の話しにもありましたが、中学校から子ども達が飯山に留まらず外へ行ってしまうという傾向ですが、地元の高校へ来てくださいという勧誘や、中学校と高校の先生同士の情報交換等は定期的におやりになっているのか知りたい。スポーツ科の陸上競技はどうか、スキーは特色があるが、陸上は薄まってしまっているような感じがする。

飯山高等学校校長)

1つ目の中学校との情報交換については、高校側が主催する体験入学や、入試説明会を1月に開催しています。中学校側から進路説明会で高校の先生に来ていただいて話をしてほしいというのは毎年やっておりまして、本校の場合は教頭が行っていて、全ての中学校回り宣伝をしています。ただ、なかなか探究科については中学生の皆さんに届いているのかは若干難しいのかなと思う。中学生や保護者の方が探究科に何を求められているのかという部分は、もしかしたら我々の認識と違うのかもしれないという思いもあります。4年制大学進学を目指しているという中学生の気持ち強いのかそういったことも絡めて域外へ流出もあるのかなと考えます。陸上の選考種目につきましては、今は指導者がおりませんが、長野東では陸上の長距離という素晴らしい実績がありますし、クロスカントリーは華々しい活躍をしています。中長距離の部分で陸上となると都大路というそんな気持ちも陸上選考の中にはあるんじゃないかと思います。生徒募集の時に甲子園と都大路、東大という大きなものがあるんです。今のところ、甲子園と東大は実現しています。先の長い話ではありますがそんなことも考えています。

飯山高校同窓会長)

決して、陸上が良いとか悪いとかではなく、そういう関連性があるということが分かりました。あと、探究科の意味というか、学問を追求していく面白さを中学生にどうやって理解させるかというのはなかなか面倒だと思う。小学生、中学生の時に何かに興味を持った物や感性を親御さんや先生達が引き出して、そこから飯山高校の探究科でいろんな物を勉強してみないかみたいな。小中で子どもの資質や能力を保護者や先生が発見できるかが大事ではないかと思う。学問はスイッチが入ると物の考え方や人生が広がっていく面白さがある。学問の面白さを早い内に子ども達に伝えることができれば、そんな仕掛けができればよいと思う。

飯山高校 PTA 会長)

PTA 会長をやっていて、なかなか言い辛いのですが、同じ教育を受けられるのであれば地元の子どもは地元の高校に通うのが1番良いのだと思います。ですが、自分も長男も長野の高校へ通っていたので地元は地元と言い辛い状況にあります。自分が中学生の時までは確か第1通学区の高校にしか行けなくて、私は私立へ行き、その後東京にいて帰ってきたら、中学生はどこの高校にも行けるようになっていたり、受験も1回失敗しても2回目もあるようになっていた。いつの間にかそんな状況になっていて、飯山の人間も簡単に長野に通えるようになってしまったのも要因の1つかなと思います。自分が中学生だったら飯山の高校に通うよりは、ちょっと遊べる長野の高校へ行ってしまおうだろうと思うので、飯山高校は良いというPRを積極的にしていくべきなんだろうなという気がしました。娘が探究科へ行っていたのですが、最初は探求科がピンとこなかったんです。普通科は普通の勉強をして大学を目指すところで、探究科は特殊な勉強をして、娘に聞いたら逆なんだよというのがありました。もしかしたら、世間一般の方々も自分と同じ認識で、普通の勉強が苦手な子どもが探究科へ行って特殊性のある勉強をし

ているという認識の方も多いのではないかと思います。飯山高校ではこんな勉強ができる、こんな道が開けるといのが明確にPRできればいいのかなという気がしています。

飯水 PTA 連合会長)

探究科の話が再三出ていますが、私は飯山北校でしたが、坂東 PTA 会長と逆で周りの話を聞きますと先程の飯山高校校長先生の話にもありましたが、探究科の方が学力の高そうな子どもが行くのではないかと情報が伝わってまいりましたので、私は探究科に行ってくださいというのは、ただ単に飯山北校 0B であるので、自分の子どもには言っちゃうのかなとは思いますが。ただ、卒業生や保護者の話を聞いてみると、大学進学の際に学部を選ぶためにいろいろなことができるような話を聞いていましたので、外に情報が正確に伝わっていない、子どもも取りに行っていないのかなという感じです。ただ、個人的には最終的に人間は働かなきゃいけないものと思ってますので、大学進学して、職業につながってくると思う。職業を選択していくのが早ければ中学生の段階で分かればいいし、少なくとも高校生の段階である程度そういうものが開けていけばいいのかなと思います。普通科問わず、探究科でも長野へ出ていく時の1つの要素で、かつては、工業高校や実業高校であれば、飯山市から外へ出て行けたので、自分の今の商売を考えると飯山北校ではなく、長野工業高校や長野高専であった方が良かったかなと思うような場面にも、日々仕事をしていると出くわします。そのあたりが経済状況の部分だったり、大学の部分だったりいろいろなだと思いますが、職業に結び付けられたりすると市外への流出もあるんじゃないかと思えます。

飯水中学校校長会長)

今皆さんから出されていることが、私自身感じていることが重なる部分があるのですが、まず、飯山高校に限らず、下高井農林高校も含めて旧第1通学区からの流出が1番の課題かなととらえています。資料3頁の飯山市内の2校を見ても、年度による上下はありますが、地元が減ってきている傾向があると感じています。野沢温泉村、木島平村、栄村の卒業生の割合を見ても第1通学区を選択しているお子さんがだいたい60%前後なので、70%~80%になってくればと思います。流出をどれだけ防げるかというのが1つと、どれだけ他区から入ってくるか、長野県全体で見した場合流出と流入がよく出されているが、入ってきてくれる子をどれだけ増やせるかというのが1つあると思います。今は選択肢が広がっているので、子ども達が長野市などいろいろなところを選択する幅が広がっております。幅が広がっているのは仕方ないので、いかに選んでもらえるかというところで魅力を知ってもらうことが大事かなと思います。先程お話があったとおり、中学校では体験入学に参加させていただいたり、各校で進路講話ということで、高校の先生方に来ていただいてお話を聞くということも行っております。その中で、よく分かっていないのではないかとということも実際感じています。例えば私から見ても探究科に行ける力のある子が普通科を選ぼうと考えることがあるので、探究科はこういうところで今後将来に向かっていく時にこんなキャリアが形成できるよということを分かりやすく、高校の方でもしていただいているが、中学校現場でもよく分かるように説明をしていかなければいけないと思っています。子どもだけでなく、保護者にも説明する必要があると思います。イメージだけで決めるのではなく、よく分かった上で自分の進路を選択することが1番大事だと思いますので、そのよく分かってもらう部分の努力を中学校としてもしていきたいと思っております。本校は進路説明の時に高校の教頭先生に加えて、自校の卒業生、飯山高校へ行っている高校生、実際の先輩に来てもらって、話を聞きます。こんな良さがあるよと実際に行ってみてどうだったっていうのが分かるようにというのも大事だと思います。

副部会長)

探究科、普通科、スポーツ科個性がなさすぎると思うんですね。探究科は進学を狙うんだったらもう少し人数を絞っても特別クラスのような感じで徹底的に進学教育をするべきだと、それを打ち出していないと中学卒業の時に、将来国公立の大学に行くと判断した子は長野高校とかへ行くだろう思う。スポーツ科もそうなんですが、当時はスキーでしたが、スキーでワールドカップ、オリンピックを目指す子ども達は、中学

の時に判断するんですけど、その子達はここには来ない。飯山高校に居たんじゃ、世界を目指せないで中学卒業と同時に世界に行くか、あるいは長野にあるんですけどスポーツを専門にやらせる私立に行くかどっちかだと思うんです。高校時代スポーツを楽しむんだという子は来るかもしれないけど、そうするとこの中で果たして分ける価値があるのかどうか。飯山北校の時代はスポーツ科はなく普通科しかなく、その中でスキー部や野球部があり、それぞれ勉強しながらスポーツを真剣にやっていた時代があったんです。探究科を求めるのであれば、私立の高校であれば当然探究科は人数を絞って東大、京大コースにしてここで学ぶ子ども達は、慶応、早稲田は滑り止めで学校教育していくはずなんです。どうやるのかって言うと、2年生の終わりまでに3年間の授業をして3年目の1年間は受験勉強をどっぷり浸からせて東大、京大を目指す。これは佐久長聖がそうなんですけど、中学からの一貫教育で、高校から入ってもそういう振り分けを随時していきます。学年ごとに特別クラスにいた子も成績が落ちてくれば普通科に振り分けていく。その代わり放課後も徹底的に先生方も熱心に授業している。そういう個性を出していくんだったらこういう分け方で私はいいのかなと思いますが、先程から探究科って何なんだろうな、みんな保護者知らないだろうなと思うのが当然であって、これは今の状態であれば難しいのかなと思う。進路学校が一覧で出ていますがこれなら普通科で勉強させても十分行ける大学じゃないのかなという気はしています。地域の子をこの高校に集めたいというのであれば、そういう特徴のある部分を前面に打ち出さない限り子ども達は出て行くだろうと思う。特に栄村の子ども達は小学校から中学校に上がる時、半分の人数は津南中学へ行きます。この半分の人数というのはどういうことなのかというと、津南中学、高校と一貫教育で完全にその先を目指している子ども達なんです。それを栄中学に行って飯山高校へ来いというのはちょっと難しいと思う。その時に引き寄せるだけのもう少し強い打ち出し方をしていかないと地域の高校として受け皿がなくなってくるだろうという気がします。継続するにはどうしたらいいかというのは我々も含めてそうなんです。学校の先生方も含めて全員で考えていかないと、特に先生方は公立の高校である以上転勤がありますので、なかなか地域に密着して考えづらい部分はあるかもしれないですが、たまたま縁があって赴任した以上はきちんとみんなで考えないと、行政側と住民側と学校側と一括になって考える必要があるんじゃないかと思います。

部会長)

それぞれご意見いただきましたけれども、今日は上原指導主事も見えてますが、高校教育そのものというのが今は基本的に中間的な教育の位置づけになってるんですよね。飯山高校の場合は基本的には進学を目指すという子ども達が来るんですけども、飯山高校を出た時に自分の先がどういうふうに開けるのかというところが具体的によく分からない。3年間一生懸命やった時に、次にこういう展開ができるんだというところが実際に子ども達が入った段階で分からない。卒業していく段階でもよく分からないんじゃないのかなというふうに思います。それは先程から話に出ていますが、私も坂東PTA会長と同じで、最初は大学進学だったら普通科へ行くのかと思っていたのですが、娘が普通科へ行き、いよいよ3年生の進路相談の時に、お金がかかるのでできたら国公立ならどこでもいいと言ったら、普通科で国公立へ進学する人はほとんどいないと言われて、その時に初めて「え～」と思った。探究科が実質的には大学進学組だとすると、そういうふうに徹底した方がいいと思うんです。その代わり今富井副部会長から話があったみたいに相当なところを狙っていくような教育をやっぱりしていくというふうにはつきりする。学校要覧の中でも、県教委の考え方もあると思うが、探究科は普通の勉強をするのではなく、いろんな課題解決やより深く研究するというお題目はあるのだけれど、現実的には無理だと思います。生徒の探究する課題に対して、教える側がより探究的なものに対して知識や技術を持っていないとてはならないが、公立高校の先生方では限界があると思う。大学レベルの話で、中途半端、実際に蓋を開けてみると大学進学組のための勉強なんですみたいな話になっていて、矛盾しているという言い過ぎかもしれないけれども、確かに課題解決に対して能力を磨くことは大事だけれども蓋を開けると大学進学組で国公立はだいたい探究科から入っていますみたいな話なので非常に分かりにくい点があるんですよね。その辺のところを飯山高校とすると生徒達が求めてきたことに対して答えられるかというようなところの体制作りをしっかりやっていかなければ

ればいけないのではないかと思います。1つは学力をしっかりつけさせるっていうのはどうやってバックアップしていくかということで先生方の力によるところが大きいと思います。その辺を保護者や生徒達にも分かるようにしていかないと、スポーツ科の人達はある程度分かるが、一般の人は分かりにくいと思う。もう1点は今、日本の社会が変わってきていて、高校を出てある大学に入ってその先にそこそこの企業に入って、自分とすると一生安定的にある程度人生設計を予測できたみたいな時代ではなくなったんです。特に、2000年を境にしてガラガラ変わっているので、高校教育の在り方、どういう物を教えていかないといけないかっていうのは考えていかないといけない時代になってきていると思う。まだ県全体とすると、この前の再編の話もありますが、生徒が減ってきている、さあどうしましょうか、そうすると都市部校と飯山高校みたいな中山間校と規模で分けて言っていて、学校の規模はどうしましょうかというところの論議から入っているが違うと思う。原点は高校の教育の内容をどういうふうにしなければいけないかということで、都市部は人数が維持できるが、中山間地域は人数が減ってきますよというだけのことで終わってしまう。そういう話だと長野県そのものの教育が先細りになってしまう。今の子ども達が将来この地域で、または全国でもいいが展望していくのだという目標と頑張りを持てない。とりあえず勉強して、大学受験したらどこどこは落ちた、どこどこは受かったというだけで終わってしまうので、その辺のところも含めて、今回このような部会もできたので、幅広く検討していくべきかなと思います。

今日それぞれ課題を出していただいたきましたが、用紙がありますので整理をしていただきまして、今日ご発言がなかった点も含めて出していただき、次回までに項目別に課題を整理していきたいと思います。

飯山高校同窓会長)

よろしいですか。手前味噌で恐縮ですが、私は飯山高校の施設とか教諭陣は充実していると思っています。高校教育って何のために存在しているかって言うと、私は社会人として恥ずかしくない知識と教養をまずは身に付けることが教育の原点だと思っています。なおかつその一方で将来自分がこういう仕事につきたい、それには東大、京大に行かなきゃできない、だから東大、京大を目指す。万遍なく飯山高校で個人個人の要望を満たすだけのものを果たして今の体制でできるか、今の学校の特色でできるかいろいろなことを考えていると、子ども達が希望していることを100%お膳立てすることは不可能だと思う。ですが、今の飯山高校は長野県下で見ても施設及び先生方の配置は他所と劣っているとは思わないので、その辺りもPRする必要があると思っています。

飯水中学校長会長)

続けてよろしいですか。先程津南中等の話が出ましたが、それに関連してお話させていたきたいと思います。津南中等は10年経過して成果が上がっています。報道によりますと昨年度は東大現役2名合格とありますが、今新潟県の中では廃止も含めた検討がなされ始めています。どうしてかということ、80名定員のところ実際は約40名が志願しているということで、実績としては新潟県内で現役の進学率も高く3本の指に入るといような成果が上がっているのですが、実際には生徒募集が定員に達しない現実があります。立地条件も含めて、そういうような事例も併せて考えていかなければいけないと思います。津南中等は進路を一つの柱に行っていますが、それだけでは募集が増えていかないことをどういうふうに考えていったらいいのかということは先程からの話と関連してくると思います。もう1点ですが、先程栄村の子ども達の半分くらいが津南中等へ進学していると話がありましたが、だいたい前はそうだったと思いますが、現在は1人ないし2人で、半分にはいっていません。だいたい10%前後です。

副部会長)

もう1つよろしいですか。私が先程から普通科だけでいいんじゃないかという発言をしたのにはもう1つありまして、スポーツ科の場合大変難しいなというのは、ここを卒業した子ども達を引き取れる企業がこの地域にないということが1番の欠点なのかなと思います。この地域に企業があって引き取れる状況であればもっともっとスポーツ科の希望は多くなると思うし、勉強よりスポーツを真剣にやろうという子ども達が出てく

ると思います。今中学生も意外と現実を考えるので、スキーをやったって将来食べていけないという感覚がすごく強いので、小学校時代のスキークラブに入っている子ども達が、中学へ行くといきなり人数がガクンと落ちるのが現実です。その辺も含めて社会全体でこのスポーツ科を考えていかないと、ただ高校に任せただけでは、繋がっていかないということが言いたかったわけです。

部会長)

それぞれご意見を出していただきましたので、それも含めて次回まとめさせていただきたいと思いますが、この用紙を出していただき、整理させていただきます。それでは、(3)の今後の進め方についてお願いします。

(3) 今後の進め方について

事務局から説明

部会長)

課題につきましては出していただき、それを次回までには項目別に整理させていただいて、話を進めやすいようにまとめていきたいと思いますのでよろしくお願いします。部会員につきましては、もし皆さんの方でこういう方に加わっていただいた方がいいのではないかというご意見ありましたら、また事務局の方へお寄せいただければと思います。部会員でなくても、専門的な方からお話を聞きたいということがあれば、この部会でその時だけ来ていただいて聞くということもできますので、その辺も含めてご意見がありましたらお願いします。皆さんの方で何かありますか。それでは協議事項についてはこれで締めさせていただきます。ありがとうございました。

4 その他

子ども育成課長)

委員のみなさんから全体を通して何かございますでしょうか。次回の日程ですが、事務局としてはまだはっきりと日程を決めておりませんが、市村においては議会もございますので、9月下旬頃というふうに考えておりますが、調整してご連絡させていただきたいと思います。

5 閉 会